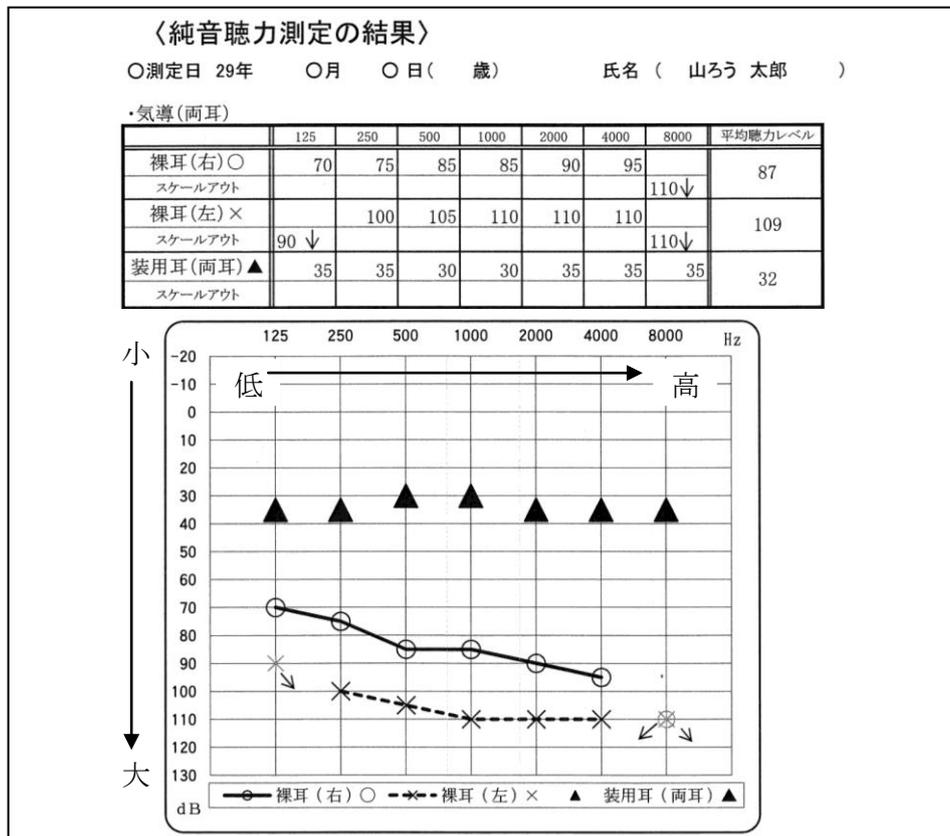


自分の聞こえを知ろう

自分の聞こえ方の状態を知っていますか？今回は、オーディオグラムの見方について勉強しましょう。下の表を見たことがありますね。この記号が書かれてある部分を「オーディオグラム」と言います。オーディオグラムに書かれている横の数値は、聞き取れる音の高さを表わしています。また、縦の数値は音の大きさを表わしています。測定結果を見ると、1000Hzの高さで、右は85dB、左は110dBの大きさが音が聞こえた（^{いきち}閾値）という意味です。

また、125Hzの裸耳の90（dB）や8000Hzで110（dB）の数字の後に「↓」が付いています。これは、「スケールアウト」と言って、125Hzでは90dBまでの音や8000Hzでは110dBまでの音では反応が見られないため、測定できなかったことを意味しています。

表1



なかなか数字だけで音の大きさを想像するのは、難しいですね。以下のリンク先の資料のP5に、音の大きさの目安の表が載っています。

- ・ <国立特別支援教育研究所>

[「聴覚障害教育Q&A50 ～聴覚に障害のある子どもの指導・支援～」より](#)

○オーディオグラムに書いてあるdB（デシベル）とHz（ヘルツ）は何を表わすでしょうか。
 （ ）にあてはまる言葉を□から選びましょう。

- ・dB（デシベル）：音の（ ）を表わす単位
- ・Hz（ヘルツ）：音の（ ）を表わす単位

高さ	大きさ
----	-----

○前のページの表1から、山ろう太郎さんの裸耳と装用時の平均聴力レベルを4分法で計算してみましょう。

平均聴力レベル = (500Hzのレベル + 1000Hzのレベル × 2 + 2000Hzのレベル) ÷ 4

太郎さんの平均聴力レベル = (30 + 30 × 2 + 35) ÷ 4

= 31.25 小数点以下切り上げで32dBになります。

スケールアウトの際は、数字に+5dB加えて計算します。

自分の平均聴力レベルは何dBがわかりますか？調べたり、計算したりしてみましょう。

○中学部高等部のみなさんは、自分の聴力測定の結果を下のオーディオグラムに書いてみましょう。
 書き終えたら、担任の先生に必ず確認してもらいましょう。

聴力について

学部 学年 氏名（ ）

〈純音聴力測定の結果〉

・気導(両耳)

	125	250	500	1000	2000	4000	8000	平均聴力レベル
裸耳(右)○								
スケールアウト								
裸耳(左)×								
スケールアウト								
装用耳(両耳)▲								
スケールアウト								

	125	250	500	1000	2000	4000	8000	Hz
--	-----	-----	-----	------	------	------	------	----

-20								
-10								
0								
10								
20								
30								
40								
50								
60								
70								
80								
90								
100								
110								
120								
130								

dB ○—裸耳(右) ○-×-裸耳(左)× ▲装用耳(両耳)▲